

思考回廊への熱き思いとその経緯

4 回生代表世話人、日野俊二

現在、同期生は皆、後期高齢者とされる 75 歳の節目を迎えています。

殆どが現役を引退し、いろいろな意味で衰退期にある同期生が一致協力して達成感を味わうことが出来ることはないだろうかと模索していたところに思考回廊の話が出てきましたので、これはいい機会だ、是非活用しようと思いました。そこで、4 回生として最も印象が深くしかも最大の思い出は何かと考えると、それは筑後川堤防の決壊氾濫による大水害だとの思いが強くなってきました。

水害の写真は久留米大学 70 周年記念アルバムにありそれを基にデザインと文案の最終案に向けて調整していく中で多くの同期生の絶大な助力がありました。特に日本大学デザイン学科の講師で、東京地区代表世話人でもある佐々木進氏は何枚もの試作品を作り続け、献身的に活動されました。

最終的に一本化するまでの約一年間、思考回廊パネル案の検討期間として当初の目的である同期生一体の達成感を味わうために最大限活用しようと考えました。具体的には東京、大阪、福岡と 3ヶ所でデザインの一任と協力をお願いする行脚を実施しました。三ヶ所の会合の欠席者は思考回廊とは無縁となりそれを避けるべく全員に手紙を納期の一ヶ月前の 2012 年 2 月に出しました。

手紙の内容は下記の通り

- (1) 経過の説明とデザイン案の一任、さらに加えて寄付金の依頼
- (2) デザイン案 (3) 生者、死者、不明者の名簿 (4) 学校日誌と ATM による振込み方法等、以上計 5 枚

(注) 学校日誌には懐かしい板垣校長、檜崎副校長、の押印と記入者の大石亀次郎先生の名前があり大水害は昭和 28 年 6 月 26 日 (金) 中間試験初日と確認

寄付金 予想をはるかに上回る 63 パーセント、67 人から 24.1 万円もあり最低の必要経費を差し引き 1.6 万円を同窓会本部へ寄付することができました。

関係者一同感謝感激しましてこれで 4 回生全員で思考回廊を作り上げたのだと言う達成感は少しは生まれたのかなとの思いを抱いた次第です。勿論、寄付者全員には結果の報告とお礼状を郵送しました。